

私はこの度、司法試験に合格しましたが、現状には満足していません。司法修習後、裁判官になることを志しており、今はスタートラインに立ったにすぎないからです。優れた裁判官となるため、修習に全力で取り組むことは不可欠です。ただ、今年父が定年に達して実家の収入は激減し、かつ両祖母の生活も援助していることから、実家からの金銭的援助は一切なしに司法修習に臨むこととなります。そこで、修習に専念するための経済的支援を賜りたく、貴財団の奨学金に応募させていただきました。

私は、偶然手にした六法全書で法律に興味を持ち、早稲田大学法学部に入学しました。大学では、アルバイトやサークル活動をしながらも、何より授業の予習や復習に力を注いでいました。サボれないという生真面目な性格にも起因しますが、特別な勉強（司法試験予備校等）なしでも、大学における努力で法曹になってみせるという信念があったのだと思います。

一方で、家計が苦しく、ロースクール進学・司法試験受験は難しいと認識していました。しかし、日々の努力が優良な成績につながり、大学3年卒業の資格を得、4年次分の学費を充ててロースクールに進学することを決意しました。情報・経験で他の受験者に劣るなか、独学で必死に勉強し、早稲田大学ロースクール既修者課程に合格することができました。

在学中の努力は、3年卒業・ロースクール合格のみならず、その年の次席での卒業としても実を結びました。この結果は勿論嬉しいものでしたが、当時既に、ロースクールではもっと頑張ろうと向上心を持っていました。

ロースクール入学当初は思うように成績が伸びず失敗も経験しましたが、努力は裏切らないと信じ、日々淡々と勉強を続けました。その結果、卒業までに順位を約70番上げ、上位15%の成績を修めました。また、司法試験受験後、多くの友人から「池見の努力する姿を見ると自分も頑張ろうと思えた」と言われ、自分の努力は周囲にも良い影響を与えていたことを実感しました。

私は当初から、法曹の中でも裁判官を志望してきました。そのため、司法試験後に大手法律事務所の内定を得ても、慢心せず修習に向け勉強を続けています。なぜ裁判官なのか、とよく聞かれることがありますが、一番の契機は学校での勉強にあると思います。大学やロースクールでは、法的紛争事例の答えを考え、論述することが主な学習です。私は、そのように机上で完結させていたこと、すなわち、事案に対して自分が出せる最良の答えを示すことを、仕事にしたいと感じるようになったのです。事件に関わる全ての人にとって、一番良い解決策を探したいのです。もちろん現実の事件は、架空の事例のように簡単ではありません。答えは「以上」と完結させられますが、現実には裁判が終わっても当事者の人生は簡単に完結しない、そこからが始まりともいえます。しかし、このことを自覚した上で、私は、事件そのものや関係する人々を真っすぐ見つめ、自分が全力で考え抜いた最良の答えを、責任を持って示したいのです。これが、私が裁判官を志す理由です。

修習に臨もうとする今、私はスタートラインから自らの夢を見据えています。しかし、ただここに立っているのでは修習期間が過ぎるだけであり、そのような状況に私は到底満足できません。私は、任官というさらなる高みを目指し、日々努力の歩みを進めていきたいと考えているからです。修習はまさにその道を成すものであり、裁判修習での起案や検察・弁護修習での実務経験など、一日一日を全力で取り組む所存です。

以上の理由から、経済的な不安を最小限にとどめて司法修習に専念できるよう、奨学金の支給を希望します。